

大幅の遅滞を御謝申し上げます。冒頭に陳ぶるべきは、まさにこの一言のみ。

直江屋主人曰く

さて、魂の舞姫・芦川羊子の踊りによって、本誌は一拳に劇場の様相を呈するにいたった。この偉大なるダンサーは、挑発行為や破壊などの次元をとうに超越して、この紙の重なりを剥落させ、そのまま別のものに組み換えてしまったのである。よつて綾宇生ズは劇場としての性格を顕現させ、ことごとくの詩篇が踊り立つ！

また、重力の旅をつづける詩人・夏際敏生は、その歩行の形をこの紙にとどめることで本誌を灼き尽そうとしている。滾り立つ熱い炎を見よ！彼の詩篇を前にして、我らは、ポエジーは天才によってしか書かれえぬという一事を改めて噛みしめることができるのだ。三月刊行予定の詩集「僧形」は大いなる事件として、創造する者たちの間に凄じい嵐を招来させるだろう。

ところで、カパー・エッセイ「デリュージョン・ストリート」は、思うところがあつて中断した。愛読の方々には御懇願したい。次号は未定。本号が難産であつただけに、もう少し考えてみたいこともある。

尚、発行所の住所を変更したので御注意あれ。

写真 神谷俊美

